ARTA with TEAM A-ONE

11th Aug 2013　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2013 年 8 月 11 日

Race Report

Super Taikyu Series 2013

Round 4 Fuji Speed Way

S 耐第４戦 富士 SUPER-TEC で３位表彰台を飾る！

8 月 10～11 日、2013 スーパー耐久シリーズ第４戦「SUPER-TEC」が静岡県富士スピードウェイで開催されました。#333 オートバックス.GLORY-R.FN2 は予選 ST4 クラス 6 位、決勝 ST4 クラス３位となり今季初表彰台を獲得しました。

■レース概要

大会名	スーパー耐久シリーズ第４戦 SUPER TEC 7 時間耐久レース
日時	2013 年　8 月 10 日（土）, 11 日（日）
場所	富士スピードウェイ（静岡県）
入場者数	8 月 10 日（土）5,700 人／8 月 11 日（日）12,500 人

■レース結果概要

車名	333 号車 オートバックス.GLORY-R.FN2
ドライバー	A:北川剛 B:野間一 C:藤田弘幸 D:下山和寿
予選	ST4 クラス６位（17 台中）
決勝	ST4 クラス３位（17 台中）

ARTA with TEAM A-ONE

11th Aug 2013　　　　　　　　　　　　　　2013 年 8 月 11 日

今回のレースに向けて

#333 オートバックス.GLORY-R.FN2 北川剛/野間一/藤田弘幸/下山和寿

第 4 戦の舞台となるのは静岡県富士スピードウェイです。このサーキットは国内最長の 1.5km のホームストレートとテクニカルな後半区間で構成され、標高 585m と国内ではオートポリスに次ぐ高地にある全長 4.6km のサーキットです。

シリーズ最長 7 時間、真夏のレースということで、マシンとドライバーに過酷な負荷のかかる耐久レースが予想されます。さらに、富士山の麓というロケーションから天候が不安定なことでも知られています。このレースに向けて#333 オートバックス FN2 は 5ZIGEN 製エキゾーストキットと軽量カーボンドアを導入するとともに前回もてぎ戦で起きたスロットルトラブルの対策を実施しました。

8 月 10 日 予選

#333 オートバックス.GLORY-R.FN2 北川剛/野間一/藤田弘幸/下山和寿

8 月 10 日（土）13:55 から 15 分間の A ドライバー予選 2 グループがスタート。#333 オートバックス FN2 は北川選手がコースインします。しかし、前方で他車の接触があり 2 周目のアタックは中止。3 周目もクーリングにあて、4 周目に 2 回目のアタックに入りますが、ダンロップコーナーで ST5 クラスに遭遇してしまいアタックを中止します。続く 5，6 周目で連続アタックを行い 1'59.651 を記録し 7 番手につけました。

クラストップは 1'57.426 を記録した#41 TRACY S2000 植松選手となりました。

P1	#41	TRACY SPORTS ings S2000 植松忠雄
P2	#95	リジカラ S2000 松井猛敏
P3	#86	GAZOO Racing TOYOTA 86 影山正彦
P7	**#333**	**オートバックス.GLORY-R.FN2 北川剛**

続いて 14:35 から B ドライバー予選 2 グループがスタート。今回はピット位置が最終よりであるため、予選開始とともにコースインしても 1 コーナー寄りのピットを使う車両に前を取られてしまいます。そこで野間選手とチームはコースインを遅らせる戦略を取りました。しかし無線交信の不具合から ST4 クラスの先頭集団よりだいぶ早くコースインすることとなり、2 周目から単独でのアタックを開始します。3 周目のアタックはコカコーラコーナーで ST5 クラスを抜きながらのアタックとなりましたが、1’59.289 を記録し 6 番手につけました。

クラストップは 1’56.938 を記録した#95 TRACY S2000 井入選手となりました。

P1	#41	TRACY SPORTS ings S2000 井入宏之
P2	#95	リジカラ S2000 中島保典
P3	#86	GAZOO Racing TOYOTA 86 井口卓人
P6	**#333**	**オートバックス.GLORY-R.FN2 野間一**

ARTA with TEAM A-ONE

11th Aug 2013 2013 年 8 月 11 日

8 月 11 日 ウォームアップ走行・ピットウォーク

#333 オートバックス.GLORY-R.FN2 北川剛/野間一/藤田弘幸/下山和寿

8 月 11 日（日）は 8:00 から 20 分間のフリー走行が行われました。#333 オートバックス.GLORY-R.FN2 は北川選手が 3 周走行しフルタンクでのハンドリングの確認を行い 2’00.335 を記録し 4 番手につけました。

P1	#52	埼玉トヨペット GB with REVO 大井貴之/番場琢/密山祥吾
P2	#41	TRACY SPORTS ings S2000 植松忠雄/筒井克彦/井入宏之
P3	#86	GAZOO Racing TOYOTA 86 影山正彦/蒲生尚弥
P4	**#333**	**オートバックス.GLORY-R.FN2 北川剛/野間一/藤田弘幸/下山和寿**

9:35 からのピットウォークは、お盆休みということもあり多くのファンがピットを訪れました。ARTA wit TEAM A-ONE は、「mountain レーシングブレーキディスク」、「KW サスペンション」、「エンドレスブレーキパッド」の PR を実施するとともに、キャンギャルオンステージでは 2 名のレースクィーンが各社の商品の PR を行いました。

ARTA with TEAM A-ONE

11th Aug 2013　　2013 年 8 月 11 日

8 月 11 日 決勝レース

#333 オートバックス.GLORY-R.FN2 北川剛/野間一/藤田弘幸/下山和寿

今回のレースはシーズン最長 7 時間の決勝レースとなります。これに伴い義務ピットストップ回数も 4 回となっています。

#333 オートバックス FN2 は予選 6 位でしたが、#48 DIJON DC5 がペナルティでグリッド降格したことにより 5 番手グリッドからのスタートとなりました。

#333 オートバックス FN2 は北川選手がスタートを担当します。ローリングは慎重なペースで始まりオープニングラップは 5 番手で通過、その後#48 DIJON DC5、#58 KRP DC5 とのバトルを展開します。

しかし 18 周目の最終コーナーでコース上にストップ車両が出たためセーフティカーが導入され、上位では#95 リジカラ S2000、#58 KRP DC5 が 19 周目にピットイン、20 周目には#333 オートバックス FN2 北川選手がピットインし下山選手へドライバー交代を行い 11 番手でコースに戻ります。

レースが再開された 22 周目に#116 W.S.S2000 がタイヤの脱落、27 周目には#93 SKR S2000 のトラブルにより#333 オートバックス FN2 下山選手は 9 番手へと上がります。31 周目には#88 村上 MS ロードスターを抜き、35 周目には#13 ENDLESS 86 と#87 GAZOO 86 の 2 台を一気に抜いて 6 番手まで躍進します。さらに 40 周目には#48 DIJON DC5 がルーティンピットストップ、52 周目には#86 GAZOO 86 がルーティンでピットへ入り 4 番手まで上がりますが、#333 オートバックス FN2 も徐々にタイヤの摩耗が進み厳しい状況となってきます。

54 周目には#52 埼玉トヨペット 86、55 周目には#48 DIJON DC5 に抜かれ 6 番手へと後退したところで、#333 オートバックス FN2 下山選手はルーティンピットストップを少し早めて野間選手へと交代します。

ARTA with TEAM A-ONE

11th Aug 2013 2013 年 8 月 11 日

#333 オートバックス FN2 野間選手は 6 番手でコースインし、61 周目には#52 埼玉トヨペット 86 がストップし 5 番手、90 周目には#58 KRP DC5 がペナルティストップしたことで 4 番手へ、97 周目には#95 リジカラ S2000 がルーティンストップに入り 3 番手まで上がります。#333 オートバックス FN2 野間選手は 49 周、1 時間 45 分に及ぶロングスティントを終え、106 周目に 3 番手で北川選手に交代します。

このルーティンストップ中に#95 リジカラ S2000 が前に出て、#333 オートバックス FN2 北川選手は 4 番手で復帰します。このころからコース上には雨が降りはじめ、129 周目ごろには一気に強まったため、#333 オートバックス FN2 は緊急ピットインでレインタイヤへと交換します。#95 リジカラ S2000 は 132 周目まで粘りレインタイヤへ交換し、光貞選手がコースインします。これは最後のルーティンストップとレインタイヤへの交換を同時に行うためと思われます。

この時点でトップ#41 TRACY SPORTS S2000 はルーティンストップを 1 回残しているもののほぼ 1 ラップ先行、2 番手争いはルーティンストップを 1 回残した#333 オートバックス FN2 とルーティンストップをすべて終えた#95 リジカラ S2000 の 2 台に絞られました。

残り 1 時間 30 分となったころ路面は乾き始めてレインタイヤの摩耗も厳しくなり、各車ピットインのタイミングを探り始めます。先に動いたのは#95 リジカラ S2000 光貞選手で素早くスリックタイヤへの交換のみでコース復帰、1 ラップ遅れて#333 オートバックス FN2 北川選手がピットへ戻りスリックタイヤへの交換と給油を済ませ、野間選手に交代してコースインします。

#333 オートバックス FN2 野間選手がハーフウェットの路面にスリックタイヤでコースインしたところ、すぐ前方に#95 リジカラ S2000 光貞選手を発見します。アウトラップの冷えたタイヤにハーフウェット路面でスライドしながらも#333 野間選手は#95 光貞選手をオーバーテイクし 158 周目に 2 番手に浮上します。しかし予選タイムで 1.7 秒も速い#95 リジカラ S2000 を抑え続けることは難しく 161 周目には抜き返されて 3 番手となります。このバトルの前方には 1 周回差のトップ#41 TRACY SPORTS S2000 井入選手が現れ、#95 光貞選手、#333 野間選手との三つ巴のバトルとなります。しかし#333 オートバックス FN2 はタイヤの冷えた状態でのハイペースの影響からタイヤの摩耗が厳しくなりタイヤから振動も出てきたため、確実に完走するためペースコントロールしながら 198 周目に 3 位でチェッカーフラッグを受けました。

ARTA with TEAM A-ONE

11th Aug 2013　　2013 年 8 月 11 日

まとめ

チーム代表代行 大河原一

「オートバックス様、mountain 西岡可鍛工業様を始めとしたスポンサー様に表彰台をお見せできたことにホッとしています。このレースに向けてカーボンドアや 5ZIGEN 製のエキゾーストを投入しましが、もてぎで好調だったブレーキが本来の性能を発揮できなかったり、エギソースト系と燃調の相性にも課題が残るなど予定していた性能を発揮することができなかったことに悔しさが残りました。

現状のマシンのスピードは#41 と#95 の S2000 勢や、#48 と#58 のインテグラ勢には若干遅れてしまいましたが、チームとしてのレース戦略、ドライバー達の荒れたコンディションでの強さで表彰台を獲得することができました。

第 5 戦岡山に向けてブレーキ系とエキゾースト系の最適化を進め、S2000 勢やインテグラ勢に追いつけるよう開発を進めます。

今回もご支援いただき大変ありがとうございました。次戦以降もご期待に応えられるようチーム一同全力を尽くします。これからも変わらぬご支援のほどよろしくお願いいたします。」